

2025年5月28日

小平市長 小林洋子 様

小平・生活者ネットワーク
代表 岩本博子

公共施設に人工芝を設置しないよう求める要望書

マイクロプラスチック汚染が世界中で進み、対策が急がれています。わたしたちの身の回りにはプラスチック製品があふれており、なかなか脱プラスチックには遠い状況です。プラスチック製の人工芝も、スポーツ施設や屋上、庭などに多用され広がっています。

人工芝は、クッション性に優れメンテナンスの手間が少なく便利ですが、多くの問題があることが明らかになってきました。使用や劣化によって削れ、マイクロプラスチックとなって下水道や河川に流出します。国内では、河川などに流出したマイクロプラスチックのうち人工芝片が25.3%と最大であり、他国と比べて人工芝の割合が突出して高かったという調査結果が出されています。

また、人工芝は熱を吸収して高温になりやすいため、熱中症ややけどのリスクも増大します。そして、人工芝には、汚れの付着防止やすべりをよくするために、PFASを含めて多くの化学物質が使用されており、流出だけでなく人工芝と接触する人体への影響も懸念されています。実際に、化学物質過敏症の人たちからは、日光、紫外線によってプラスチックが劣化し、温度の上昇によって有害な化学成分が揮発して臭いがすると指摘されているのです。

小平市は、多くの市民とともに、リサイクルやプラスチック分別をはじめ、ごみ減量を熱心に進めてきた歴史があります。また、子どもの感受性や行動パターンに着目した「化学物質の子どもガイドライン」に則り、特に子どもが接する場で有害化学物質を避ける取り組みも進めてきました。

小平・生活者ネットワークは、設立以来ごみや有害化学物質の問題に取り組んでいます。中央公園グラウンドに人工芝設置の計画が出されたときから、問題点を指摘し、見直しを求めてきました。新たにこの計画を知った市民からも中止を求める意見が出されています。多くの子どもたちが利用する想定も考えると、こうした声が大きくなるのは当然であり、中央公園への設置を機に公共施設の人工芝が広がるのではないかと危惧しています。

アメリカでは、人工芝の設置を禁止する自治体が増えています。市による禁止は難しいとしても、公共施設への設置はやめるべきです。マイクロプラスチックの抑制と利用者への影響を防ぐために、公共施設に人工芝を設置しないよう要望します。

以上